

2025年8月4日（第1.4版）

救急科に、過去に入院された患者さんまたはご家族の方へ
（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報／研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和4年3月10日一部改正）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] 生体侵襲と DNase と臓器不全や凝固障害の関係

[研究代表機関名・研究代表者名・所属]

北海道大学病院 和田 剛志 救急科

[共同研究機関名・研究責任者名]

熊本大学大学院生命科学研究部血液免疫病態解析学 伊藤隆史

[研究の目的] 重症急性期病態における、血中の DNase と DAMPs、凝固線溶系検査結果、予後の関係性を探索する。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2019年9月～2021年10月の間に北海道大学病院救急科に入院した敗血症もしくは心停止蘇生後、重症外傷の患者さん

○利用する検体・情報

検体：既に保管済みの血液

情報：

- ① 研究対象者基本情報：年齢、性別、診断名、
- ② 血液学的検査：ヘモグロビン、白血球数、血小板数、
- ③ 血液生化学的検査：総ビリルビン、直接ビリルビン、間接ビリルビン、アルブミン、AST、ALT、CK、 γ -GTP、総蛋白、LDH、クレアチニン、BUN、Na、K、Cl、Mg、IP、アミラーゼ、リパーゼ、ミオグロビン、尿酸、CRP
- ④ 血液凝固線溶系検査：PT、APTT、フィブリノゲン、AT-3、FDP、D-dimer、SFMC
- ⑤ 入院から7日目までの臓器不全の重症度（Sequential Organ Failure Assessment (SOFA) Score を用いて評価する）
- ⑥ 入院から7日目までのDICの重症度（DICスコアを用いて評価する）
- ⑦ 入院中の治療内容
- ⑧ 退院時生命予後、入院期間
- ⑨ Deoxyribonuclease、ヌクレオソーム、HMGB-1、Cell free DNA、ヒストンの定量測定、好中球グラチナーゼ結合性リポカリン、好中球コラゲナーゼ、カルプロ

テクチン、ミエロペルオキシダーゼ、熱ショックタンパク質 Hsc70、シンデカン 1、ラクトフェリン、カテリシジン

デオキシリボヌクレアーゼ：DNA を分解する酵素

ヌクレオソーム：DNA がヒストンに巻き付いた状態

HMGB-1：細胞の核内に存在するたんぱく質の一種

Cell free DNA：血中に存在する DNA

ヒストン：染色体を構成するたんぱく質の一種

好中球グランチナーゼ結合性リポカリン：好中球から放出されるタンパク質

好中球コラゲナーゼ (MMP-8)：コラーゲンを分解する酵素

カルプロテクチン：好中球に存在するタンパク質

ミエロペルオキシダーゼ (MPO)：好中球に存在する酵素

熱ショックタンパク質 Hsc70：細胞保護に関与するたんぱく質

シンデカン 1：血管内腔の表面に存在するたんぱく質

ラクトフェリン：感染防御機能をもつたんぱく質

カテリシジン：侵入細菌の感染に対する抗菌ペプチド

○送付方法

上記の検体は、⑨の項目の測定のために、熊本大学に送付します。

[研究実施期間]

実施許可日～2028年12月31日（登録締切日：2027年12月31日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報や検体を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[研究責任者名・所属] 和田 剛志 (北海道大学病院・教授)

[連絡先・相談窓口]

北海道大学病院救急科

担当医師：早川 峰司

住所：札幌市北区北 14 条西 5 丁目

電話：011-706-7377 FAX：011-706-7378